

月報

# 岡崎の教育

6月号



## 祈る心

大和民族は祈る民族である。年の初め神に五穀の豊穰を祈り、天神地祇を全能の親とし、その大前にひれ伏して、子としての赤誠を捧げ祈り奉る姿の美しくさは、実にわが国独特のものである。かくてこそ神明も感応あつてあるいは五風十雨に恵まれ、あるいは悪魔降伏の利剣を授けられるのである。

岩槻信治「稲作改良精説」より

昭和50年6月1日  
編集・発行  
岡崎市教育委員会  
印刷  
研文印刷社



(梅雨空をふきとばすハンドボールの練習——六ツ美中学)

# 十年たって

## 教育随想



杉浦敦太郎

日曜日の午後一時五分になると、家にいる限りはテレビの前に坐る。NHKの中学生日記が始まるからだ。中学生の教室のさまざまな設定に、生徒が、教師が、父が、母が生きて動くなかに、私のころは、教師のころに移入してしまう。あの時、自分ならこうしただろう、ああはとでもできなかっただろう、あれはこうすべきではないかと、生徒に、父母に向かう教師の思いに、態度に、行動に、汗のにじむ思いになることもある。そうして三十八年の教員生活の終りの十四年間をすごした私の中学生教室の一駒一駒が、テレビの画面と重なりあって、自分の教育がどういふものであつたかと思ひ、つくづく教えることのむずかしさ、大事さを感じるのである。

雑誌アララギによつて短歌を読み、短歌を作つてきた。「短歌は生活者の呼び交わす声である。」との土屋文明の立言を信じて集まつているアララギ会員の作は、虚構のない、生活の現実の表現なので、会員どうし、それぞれ職業も性格も気質も、おのずから互いに知りあつて、一度も顔を会わせなくても旧知のような、間柄になつてしまふのである。作歌力も衰え、何千首と並ぶ月々のアララギの作品を、鑑賞する気力も弱つてしまつた最近の私だが、ページを繰つていくうちに、目のとどまるのは、教師の作、教育の歌である。最近号から幾首かを引いてみよう。

- (1) 会議多き学校に長く働きて発言せぬ幾人かの中に吾が居り 札幌 笹原登喜雄
- (2) 集団交渉の如き物言ひする教師に時にたちろく職員室に 金沢 多幡垣世
- (3) 成績開きに來し学生はオーバーに両手入れしまま話しだしたり 長野 植木修治
- (4) 稼業つきし教へ子はみな型のごとく自
- (5) 負ひつつ控へめにしつづ勤め来て誰も憎まず過ぎし三年 安城 野場美草
- (6) 因はれし吾が若き日に觸るるなく励まし用みくれし教育長を思ふ 函館 寺田六郎
- (7) 治安維持法に問はれし過去を秘めながら教へ來し授業も今日で終りぬ 全一首一首にただよう生活感情が、私の胸に痛切に響いて来る。一首一首のイメージは、三十八年間の私の教師生活のうち、私であつたり、あの男であつたり、この人であつたりして、教師としての私を、いやでもふりかえらせる。(5)のような清純な新任教師が今後どんな道を歩んでいくのだろうか。

退職して十年、教育ははまだ私をつかんでいて時々苦しい夢を見させる。  
(西尾市史編集委員長)

## 飼育



いまはむかし

飼つて食べて  
戦局は日増しに悪化し、一時間の授業もむずかしくなつてきた。運動場は、勤労精神高揚の掛け声で掘り起こされ、芋や大豆が植えられた。校庭の片隅は、いっしょか山羊やうさぎの飼育場となつた。産めよ、殖やせよ。下痢のうさぎには、げんのしょうこのせんじ汁が効く。うさぎは殖え、飼育箱は何段にも積み上げられた。毛皮は軍人の防寒具に、肉はお菜給食の主人公として、児童の体力増強に一役買った。  
順番で飲む山羊の乳は、児童たちの貴重な栄養源であつた。煮方のコツは、表面に薄い膜が張つた頃を見計らつて塩をほうり込むこと。教師の腕前は上達し、味見も確かなものとなつた。児童たちの世話した昨日の餌が殺物か草かを、コクの濃淡で当て得たという。  
理科の観察とはほど遠いところで、飼育への心構えが問われた時代であつた。  
見て悲しんで  
戦後は、鶏、アングラうさぎ、モルモットなど種類もふえ、日記をつけての観察が始まつた。児童たちは、草を片手に

ふるさとのしぜん

天然記念物

ゲンジボタルを  
育てる



電燈をつけると数千の卵がそこに産みつけられている。すばらしい発見。四人が手を取ってこおどりをする。時計はすでに十一時半をまわっていた。

うそで通した一年

四十一年七月、故人になられた美合郵便局長、栗田さんから約八百びきの幼虫を頂き飼育をはじめたのが河合のホタル研究のはじめである。あれから十年。保存会の結成、生徒会の協力、秦梨・生平両小学校の援助などの保護活動の輪が広がり、全国屈指の発生地になった。その間に経験した苦勞や感動の一コマが思いおこされる。

栗田さんに頂いた幼虫は、実は全滅してしまっていた。頂いて三か月目、「もうそろそろ脱皮の時期だが、一度見せてもらいに行きます。」

の電話に、幼虫を何とかしなければ……と連日全クラブ員と川岸で天然の幼虫をさがしまわった。土曜も日曜もない。

探索をはじめて十日目、生徒がカワニナについている幼虫をみつけたとき、やつと安どの胸をなせおろした。栗田さんに「きみたちなかなかかじょうずだね。」とほめられたとき、「実はこの幼虫は……。」とはどうしても言えなかった。なんと申しわけのないことをしたと反省している。しかしこの数日が研究を進めるうえで本当に役立っている。

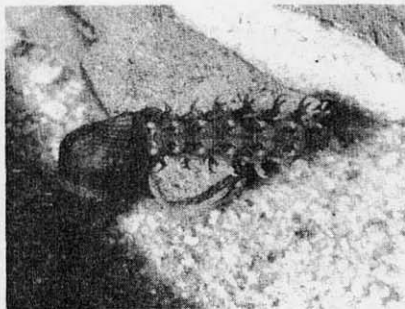
ただ一つの食物

ホタルの名は「火垂れ」からつけられたようである。現在日本に生息するホタルは二十四種、そのうち実際成虫が発光するものはほんの数種である。発光器も羽までも退化したホタルすら存在するのである。

戦後の食糧難時代を思うと、今は全く幸せな毎日であるが、ゲンジボタルの食物は「カワニナ」ただそれだけである。固いふたのついた、自分の体の何倍もある巻貝に、いのちをかけてたちむかうのである。代用食はない。

ホタルが減ったのは、河川がよごされてこのカワニナがいなくなつたからである。人間生活の向上のかけに、多くの自然が様相をかえつつある。清流のゲンジボタルも無言のままに故郷を取りあげられそうになっている。断たれた生命はよみがえらなことを、私たちは真剣に考えなければいけないと思う。

(河合中 古田忠久)



カワニナを食べる幼虫

飼育小屋を取り囲み、動物たちの動作に一喜一憂しながら時を過ごした。

鶏が野犬に襲われ、全滅したことを知って驚いた児童たちは、またある日、一匹のモルモットが忽然と消えたことを見て悲しんだ。児童の「どこへいったの」という質問に、後ろめたい思いをした教師もいたようだ。

昭45年、卵の成長の観察に着手。当初は、宿直室のこたつやチャボの腹を借りての孵卵の試みもあれば、自作孵卵器の温度調節がうまくいかず、腐乱化の実験かと皮肉られたこともあったという。

ひな誕生の喜びは大きい。しかし、解剖実験の、育て殺すという複雑な気持ち。供養塚での思いはまちまちであった。

放して困って

少しでも自然の状態で伸び伸びと飼育や観察をと、施設の拡張と充実が、いろいろな挿話を生みながら進められた。

放し飼いのうさぎたちは、われらは穴掘りの名手という教訓を残して、一晩のうちに金網の下から集団で脱走した。

三島小の「みどりが池」で待機していたあひるたちは、奇声を放ちながら登校児童を襲い、「餌をくれ。」とせがんだ。手提げ袋の検閲を受ける児童たちの、教室までの道のりは長かつたのである。

現在は、育ての心が伝わる苦心談よりも、飼育が続けにくくなっているという現場の声を聞かされるほうが多い。

(板倉四郎・筒井博喜・後藤章先生の  
お話から)

森・遊びを創る ▶

自然を満喫した子どもたちは、自然を愛することを肌で知る。そして、創造力と活力とを森から吸いとる。

(井田小・いこいの森)



創意ある学習環境



◀ 岩・ふるさとの伝承を刻む。

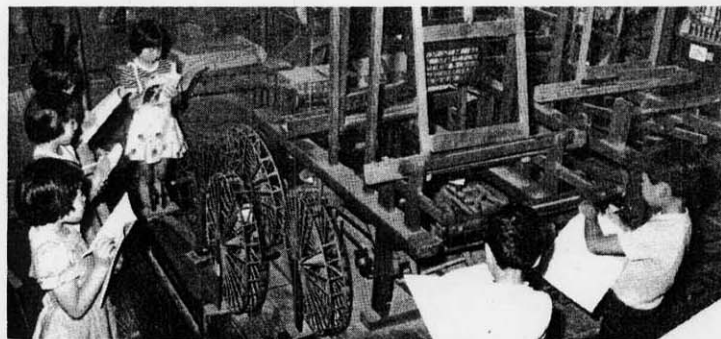
岩を刻む彫りの深さと表情の大らかさ。瀧山寺の鬼面に啓発された現代っ子のイメージ。「心の琴線に触れるもの」を求めた成果の一例。

(常磐中・瀧山寺の鬼)

機・父祖の生活を学ぶ ▼

糸車の軋みは紡ぎ歌、石臼の響きは粉ひき歌。800余点の民具が語りかけるものは父祖の歴史であり、郷土の歴史である。

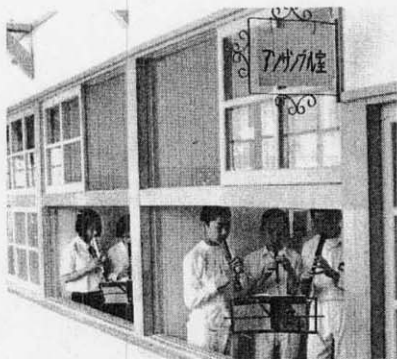
▼ (広幡小・郷土資料室)



碑・物に即して学ぶ ▲

晶子の歌碑は公孫樹の並木に、バラ園にはバラを詠んだ歌が。具体化、直感を大切にすることが「わかる」ことの基盤である。

(竜海中・文学苑)



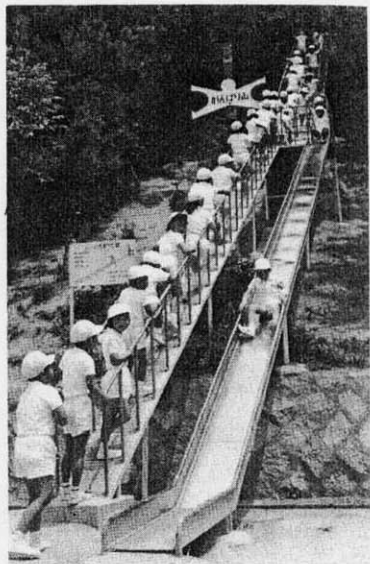
### ◀ 笛・アンサンブル を楽しむ

リコーダーの合奏が流れ、隣りからはオルガンの演奏が66室の小部屋と研究室とがインターホンで結ばれる。個々の学習効率を高める努力の中で生まれた個別化のくふう  
(甲山中・アンサンブル室)

### 像・先人の業績に触れる。

名誉市民が紹介され、愛蔵品が並べられる。人に接し、物に触れる中で得られるものを大切にしたい。継続の中で培われる心情が結実する日を待つのも楽しい。

(城北中・博物館)



### 山・遊びの中で鍛える ▲

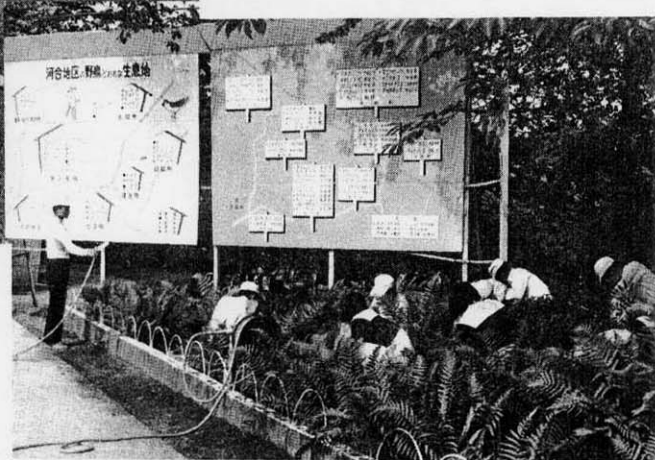
そこに山はあった。鍛える場を求めると鍛え方の種々相とがかみ合ったとき、山は体力づくりの場として生きかえった。  
(岩津小・がんばり山)



### ◀ 芝・踏青の中で全校給食

週一度の芝生給食がとても待ち遠しい。清新な大気の中で、笑いが風に流れる。アイデアが生み出した和合の一時。

(常磐南小・運動場)



### 陰・ふるさとの自然を見守る ▶

河合でみられるシダ類は約70種。集め、育て、野にかえす活動の中で自然への愛着心が育てられる。

(河合中・シダ園)

## 一 講演記録 一

## 本多光太郎先生

## 思い出の

## 茅誠司

私は七十六歳三か月という高齢ですが、今までを振り返って見ましたときに、一番ありがたしいと思ふのは、よき師に恵まれたということです。よき師とは、申すまでもなく、本多光太郎先生です。

私が東北大学を卒業する年は、世の中が不景気で就職口がなかなかありませんでした。あるとき、先生が、「茅君、君行く所ができたかん。」とおっしゃる。「どこもありません。」というところ、うか、そいじやしばらく研究所にいますんだわなあ。」とおっしゃって、研究補助という名目で、鉄鋼研究所（現在の金属材料研究所）へ参りました。

は、いつも弟子たち一人一人に合った研究題目を選んで与えられました。私の大きな仕事の一つにもなっている、「鉄、ニッケル、コバルトの単結晶を作り、それによって磁気測定をする」という研究題目も、先生が与えてくださったものでした。先生は我々に研究題目をお与えになると、なかなか、「もういいわなあ。」とおっしゃらない。「こうやれ、ああやれ。」と、いろいろな点から指示なさいました。そうして、最後にはとうとう成功させるどころまで、もつてきてくださいました。

先生とのように親しく接しておりますが、いろいろ感じたことがあります、その一つは、先生は大変無邪気な方だということです。先生は宝塚の歌劇がお好きでしたし、天勝という女奇術や、女浄るりなどもよくご覧になりました。また、先生は人の悪口を言われなかつた方です。先生の学友である岡田氣象台長が、甥の郡司さんのご教育を先生に託されていましたが、あるとき、岡田台長が「郡司はよく勉強するか。」と尋ねになると、「郡司はよく運動するわなあ。」とおっしゃって、決して勉強しないとはおっしゃらない。

私どもが、一番尊敬してますのは、いかなる時でも研究のことが頭をはなれなかつたということ。昭和二十年七月十日、仙台は空襲を受けました。

このとき、先生の高弟の山田光雄教授が、市中の猛火をくぐって先生のお宅をお見舞いしますと、「うちは二発だわなあ。（焼夷弾のこと）研究所はどうだん。」とお聞きになったので、「本館は無事でしたが、木造はみな焼けてしまいました。」というところ、伊勢屋横丁はどうだん。」「あそこは完全に焼けしまいました。」先生、即座に、「山田君、すぐそこを買おうといいわなあ、研究所の拡張ができるわなあ。」と。こんなときでも、先生は研究所のことを考えていらつしやる、これほど、一つのことを完成するために努力を傾倒された方だと

私は思います。

今、日本は非常に大きな危機に直面しています。国民所得が一人四千ドルという豊かな国であり、外国に依存していません。国際協力、相互依存がなければ、一人立ちできないのが、日本という国です。世界とともに生きて、秩序のある世界を実現して行くという方向に、我々日本人が一致協力しなくては行けない。本多先生が一生を自分の目標に向かつて努力されたことをよく知って先生がおっしゃつたように、ふたたび生まれ変わつてきても、「今と同じ努力を続けたい」というようなそいう人になることが大切ではないかと思ひます。（昭和五十年八月 本多光太郎銅像建立記念講演）

## かがみ

## 仮病

## 神尾知子

教室に一步足を踏み入れたとたん「先生、どうしたの、どうしたの。」との質問攻めにあつてしまった。私は左足に包帯を巻き、びつこをひいていたのである。

2時間目、昨日かぜで欠席したA子が泣きべそをかいて、「先生、足が痛い。」といいながら、私のけがしている足と同じところをおさえながらやってくるではないか。ははあん、仮病だなとピンときて、思わずふき出したくなるのを、ぐつとおさえて「保健室へ行っていらつしやい」といつてみた。

まもなく、やってきたやってきた。私と同じように包帯を左足に巻いて。そこで一言。「あした、社会見学行ける？」次の時間、もう足に包帯はなく、A子は友だちと走りまわっていた。

（連尺小）



市の花 あやめ

# 南公園交通広場で安全指導

### 六月から七三〇〇人が参加

最新の施設設備を誇る市南公園交通広場で、全市の小学校三年、一年を対象にした交通安全指導が、現職教育交通安全本部会（部長六南小山内校長）の計画により六月九日から始まった。

これは、学校の教室や運動場ではおのずから限度のある具体的、実際の場面の指導を、整った施設で、しかも楽しみながら行なおうとするもので、全市的に早くから待望されていたもの。

本年度は、とりあえず三年を前期（10月中旬まで）、一年を後期（10月中旬以降）とし、計七三〇〇名を対象に、土・日を除いて連日、次のような内容を重点にして指導をする。

【指導内容】▽広場Ⅱ・歩行者マナーの体得・自転車の乗り方、通行方法・ゴーカートによる乗

## 【寄贈刊行物・資料等】

◇日記・同楽山人 角谷米三編  
「資料同楽山人」に続く第二著。膨大な同楽翁の日記からの抜すいで、吟行や家族の消息、子規との邂逅など山人の面目が躍如としていて興味深い。A5判、一二〇ページ（秦梨小内）

## ◇郷土の名木

岡崎市樹木調査委員会編  
市内各地の名木百本を選び、樹木名、大きさのほか特徴、歴史的いわれなどを写真とともに紹介した貴重な樹木の戸籍簿。市の委託を受けた理科部生物専攻の先生方の労作。A5二二〇P

り物の安全▽バスⅡ・乗り降り乗客のマナー▽教室Ⅱ・講話映画などによる安全指導・その他※日程は午前中に終了

■教育文化賞実施要領  
一昨年度、岡崎竜城ライオンズクラブからの基金により制定した「教育文化賞」の本年度実施要領は次のとおり。

▽趣旨Ⅱ岡崎市の教育文化振興に寄与する個人、または団体のすぐれた業績や、現に続けている研究に「教育文化賞」を贈り、顕彰、助成を行なう。  
▽選抜方法Ⅱ本人、団体よりの申請、または関係機関の推薦を

受け、選考委員が選定する。  
▽表彰Ⅱ受賞者（数件）発表は十月下旬、授賞式は十一月中。賞額のほかに教育文化奨励費を贈る。

■49年度の進学状況  
市内中学生の全日制課程進学状況調査の結果は次の通り。  
▽卒業生二九六二名中、進学者二五九一名（八七・五％）就職者三七一名▽内訳Ⅱ県立高校一九四〇名（七四・九％）私立高校六二九名（二四・四％）国立二二名▽また市内高校へは一九七九名（七六・四％）三河地区五五九名、尾張県外へ五三三名。

## 50年度 岡崎市中学校総合体育大会の記録 (50・5・18)

種目	成績				個人成績							
	優勝	2位	3位	3位	陸上競技	球技	印新記録	印タイ記録				
陸上競技	男	葵	矢作	岩津	男子	記録氏名	校名	女子	記録氏名	校名		
	女	甲山	城北	葵	100	○ 11' 5	石田博巳	葵	100	13' 5	神尾加代子	岩津
バスケットボール	男	美川	城北	矢作	200	○ 24' 5	日比徳浩	岩津	200	△ 28' 2	本田 泰子	甲山
	女	矢作	葵	甲山	800	2' 20' 2	芦田任巨	葵	80H	13' 0	飯田 絹子	城北
バレーボール	男	矢作	城北	南山	2000	○ 6' 15' 8	鈴木英典	矢作	100H	14' 7	鈴木喜尊	葵
	女	矢作	葵	城北	800R	1' 43' 2	葵	葵	400R	55' 2		甲山
庭球	男	矢作	常磐	葵	低400R	52' 4	矢作	低 400R	57' 9		葵	
	女	矢作	東海	六ツ美	走幅跳	5 = 88	佐藤見一	葵	走幅跳	4 = 82	本田 泰子	甲山
卓球	男	葵	南	東海	走高跳	1 = 65	鈴木正行	岩津	走高跳	1 = 35	榊原 洋子	甲山
	女	東海	矢作	香山	砲丸投	11 = 74	太田勝巳	矢作	砲丸投	10 = 40	山本 初美	東海
体操	男	竜海	葵	東海	体操競技							
	女	南	葵	矢作	男子	氏名	校名	女子	氏名	校名		
剣道	男	福岡	常磐	城北	機械総合		竜海	機械総合		南		
	女	福岡	葵	城北	団体徒手		葵	団体徒手		葵		
柔道	男	美川	美川	竜海	個人総合	安藤 静	竜海	個人総合	青山 洋子	南		
	女	美川	美川	竜海	床	安藤 静	竜海	床	青山 洋子	南		
ハンドボール	男	美川	六ツ美	城北	鉄棒	安藤 静	竜海	平均台	青山 洋子	南		
	女	岩津	六ツ美	葵	跳箱	安藤 静	竜海	跳箱	沢田 明美	矢作		
ソフトボール	女	岩津	甲山	城北	柔道							
	男	東海	岩津	甲山	優勝	藤訪部	達美	美川				

## 6月の行事

日	日	行	事
1	日	中学校修学旅行(13校、14日まで)	新人卓球大会(市民体育館)
2	月	養教教育実習(28日まで井田小、竜谷小)	六ツ美北小起工式
3	火	定例教育委員会(市教委)	中学校新任教員研修会(南中)
4	水	月報岡崎の教育編集委員会(市教委)	
5	木	岡崎東高校開校記念式典	
6	金	市小中PTA連絡協議会総会(連尺小)教育実習(21日まで若中、矢中)	緑丘小、岩津中起工式
7	土		
8	日	新人卓球大会(東海中)春季市民サイクリング大会(桑谷山荘)	市夏季一般男女軟式庭球大会(公園)
9	月	教育実習(28日まで羽根、山中、秦梨、21日まで甲山、城北、福中、常中)	
10	火	愛教大附属岡崎小研究協議会(11日まで)	
11	水	市社会教育審議会	
12	木		
13	金	岡崎図書館協会幹事会(市図書館)	
14	土		
15	日		
16	月	県教委特殊学級訪問(細川、梅園、連尺、南中)	
17	火	岡崎市民大学運営委員会(婦人会館)小学校新任教員研修会(六名小)学校開放事業連絡協議会(市役所)	
18	水	定例校長会(河合中)	
19	木	市教育委員学校訪問(羽根小、福岡中)	
20	金	県教委主事学校訪問(六名小)市文化財保護審議会(市役所)	
21	土	市教職員体育大会(葵中)市子ども会ソフトボール講習会(井田小)	
22	日		
23	月	学校プール巡回指導(7月4日まで)	
24	火	新任教員研修会(矢作西小)	
25	水	教育講演会/講師・中根千枝先生(勤労会館)第3回市民展(美術館)	
26	木	学校保健会総会(医師会館)	
27	金		
28	土		
29	日	市民展表彰式(美術館)	
30	月	市民ダブル卓球大会(市民体育館)	



- |                                    |                 |
|------------------------------------|-----------------|
| ○絶望からの出発<br>講談社 50・5               | 曾野 綾子<br>¥ 590  |
| ○教育の再興<br>講談社 50・3                 | 村井 実<br>¥ 1500  |
| ○無思想時代<br>中央公論社50・5                | 清水幾太郎<br>¥ 1000 |
| ○本が語ってくれること<br>新潮社 50・1            | 吉田 健一<br>¥ 950  |
| ○こもんせんす<br>北洋社 50・1                | 江 藤 淳<br>¥ 980  |
| ○にぎやかな街で<br>文芸春秋 50・5              | 丸谷 才一<br>¥ 780  |
| ○わが半生の記<br>新潮社 50・5                | 石坂洋次郎<br>¥ 1500 |
| ○村の生活誌<br>中公新書 50・5                | 守田 志郎<br>¥ 340  |
| ○本とつきあう法<br>筑摩書房 50・2              | 中野 重治<br>¥ 1400 |
| ○自然観察入門<br>草木虫魚とのつきあい<br>中公新書 50・3 | 日浦 勇<br>¥ 380   |

## 寸言

▲ 目にしみる若葉からしたたる新緑へ  
五月晴れから雨の季節へ、

樹も草もしづかに梅雨はじまりぬ

〈日野 草城〉

▲ 「××君」という言い方が若い女性の間に流行しているという。「××君」は男性語、「××さん」は女性語、という感覚は、今や消えかかっているらしい。

▲ 地域に根ざした環境づくり盛ん。創造的なアイデアが、子どもの生活に豊かな色どりをそえる。

・カット 水越和子(城北中)